

令和 5 年 度
公立大学法人三重県立看護大学
業務実績報告書 資料 目次

〈添付資料〉

| | |
|------------------------------------|---|
| 中期目標（数値目標）に対する実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1 |
| 中期目標（数値目標）に対する未達成項目について・・・・・・・・ | 2 |

〈補足資料〉

【21101】

| | |
|--|---|
| 入学者選抜方法の点検 参考データ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 3 |
| 令和7年度三重県立看護大学入学者選抜について・・・・・・・・ | 4 |
| 令和7年度特別選抜地域推薦型選抜・多言語多文化選抜・東紀州地域指定校推薦型選抜小論文（外国語の読解を含む） サンプル問題・・・・・・・・ | 7 |

公立大学法人三重県立看護大学中期目標(数値目標)に対する実績一覧

| 指標名 | 第三期中期目標期間 | | | | | | | | 基準値 | 備考 |
|--------------------------------------|-----------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|---------|---------|--------------------------------------|
| | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | 合計 | | | |
| II-1 教育に関する目標 | | | | | | | | | | |
| 看護師国家試験合格率(%) | 目標値 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | - | 98.8 | |
| | 実績値 | 99.0 | 99.0 | 98.1 | | | | - | | |
| 保健師国家試験合格率(%) | 目標値 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | - | 91.6 | |
| | 実績値 | 96.0 | 98.0 | 99.0 | | | | - | | |
| 助産師国家試験合格率(%) | 目標値 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | - | 98.2 | |
| | 実績値 | 100.0 | 90.9 | 100.0 | | | | - | | |
| 看護師国家試験合格者数(人) | 目標値 | 95 | 95 | 95 | 95 | 95 | 95 | - | 99.0 | |
| | 実績値 | 98 | 98 | 101 | | | | - | | |
| 保健師国家試験合格者数(人) | 目標値 | 95 | 95 | 95 | 95 | 95 | 95 | - | 91.6 | |
| | 実績値 | 95 | 97 | 102 | | | | - | | |
| 助産師国家試験合格者数(人) | 目標値 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | - | 10.8 | |
| | 実績値 | 10 | 10 | 10 | | | | - | | |
| 県内就職率(%) | 目標値 | 55.0 | 55.0 | 55.0 | 55.0 | 55.0 | 55.0 | - | 51.4 | 県内への看護職就職者数/就職者数 |
| | 実績値 | 62.5 | 56.6 | 57.4 | | | | - | | |
| 修士学位取得者数(人) | 目標値 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | - | 5.6 | 研究科での学位取得者数 |
| | 実績値 | 12 | 10 | 3 | | | | - | | |
| II-2 研究に関する目標 | | | | | | | | | | |
| 競争的研究資金申請率(%) | 目標値 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | - | 99.3 | 申請(継続含む)教員数/在職教員数 |
| | 実績値 | 97.8 | 100.0 | 100.0 | | | | - | | |
| 外部研究資金採択率(率) | 目標値 | 50.0 | 50.0 | 50.0 | 50.0 | 50.0 | 50.0 | - | 52.4 | 科学研究費補助金等の外部研究資金の採択率 |
| | 実績値 | 50.0 | 56.9 | 59.2 | | | | - | | |
| III 社会・地域貢献に関する目標 | | | | | | | | | | |
| 看護職者を対象とした講座等の開催数(回) | 目標値 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | - | 100 | 看護職者を対象とした専門講座等を開催した数 |
| | 実績値 | 123 | 130 | 175 | | | | - | | |
| 県民向け講座等の開催数(回) | 目標値 | 96 | 96 | 96 | 96 | 96 | 96 | - | 96 | 県民が参加可能な講座等を開催した数 |
| | 実績値 | 97 | 131 | 126 | | | | - | | |
| 学術研究団体等のさまざまな主体の活動に参画した数(人) | 目標値 | 48 | 48 | 48 | 48 | 48 | 48 | - | 48 | 県内外の学術研究団体の役員や行政等の審議会委員等に就任した教員の延べ人数 |
| | 実績値 | 58 | 63 | 66 | | | | - | | |
| IV 大学運営に係る環境整備に関する目標 | | | | | | | | | | |
| 学生アンケートにおける学生の満足度(%) | 目標値 | 80.0 | 80.0 | 80.0 | 80.0 | 80.0 | 80.0 | - | 79.6 | 学生アンケートによる大学生生活の支援に対する満足度 |
| | 実績値 | 97.1 | 96.3 | 97.8 | | | | - | | |
| V 的確な業務運営の実施および業務改善に関する目標 | | | | | | | | | | |
| 中期目標期間中の改善事例件数(件) | 目標値 | - | - | - | - | - | - | 10 | 1.6 | 中期目標期間中に学生や教職員から要望を受け改善に取り組んだ事例の総数 |
| | 実績値 | 3 | 2 | 3 | | | | - | | |
| VI 財務内容の改善に関する目標 | | | | | | | | | | |
| 中期目標期間中の法人の自己収入額(千円) | 目標値 | - | - | - | - | - | - | 143,000 | 165,532 | 中期目標期間中の授業料、入学金を除く自己収入総額 |
| | 実績値 | 34,872 | 50,006 | | | | | | | |
| VII 大学教育の質保証および情報の公開・発信に関する目標 | | | | | | | | | | |
| 自己点検・評価結果に基づく改善率(%) | 目標値 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | - | 100 | 前年度の課題の解決に向けての取組の実施割合 |
| | 実績値 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | | | | - | | |
| 自己点検・評価の実施状況(回) | 目標値 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | - | 1 | 自己点検・評価の実施回数 |
| | 実績値 | 2 | 1 | 1 | | | | - | | |

中期目標（数値目標）に対する未達成項目について

| 指 標 名 | 令和5年度 | | 理 由 等 |
|-------------------|-------|------|--|
| | 目標値 | 実績値 | |
| 看護師国家試験合格率 (%) | 100 | 98.1 | <p>令和5年度の看護師国家試験の合格率は98.1%（103名中101名合格）であり、昨年に引き続き全国平均（93.25%）を上回ったが、100%の合格率は達成できなかった。</p> <p>国家試験対策として、看護師模擬試験は3年次の低学年用模試を含めて6回の試験を実施した。国家試験の傾向と対策に関する動画を作成し、8月、10月に配信した。また、図書館のホームページに国家試験対策のページを設けるなど、学生支援を行った。全教員が指導を行い、看護師国家試験模試の成績不振者に対して個別指導を実施し、国家試験対策ワーキング員から定期的な支援メールを送信し、学生への意識づけを行った。</p> <p>令和6年度は、卒業研究担当教員からの国家試験に対する学生への働きかけを継続するとともに、4月ガイダンスにおいて先輩が取り組んだ有効な勉強法を紹介することや講義室近くに国家試験対策用の棚を設置し情報を提示することで早期から学習を開始するよう支援する。</p> |
| 保健師国家試験合格率 (%) | 100 | 99.0 | <p>令和5年度の保健師国家試験の合格率は99%（103名中102名合格）であり、全国平均（97.7%）を上回ったが、100%の合格率は達成できなかった。昨年に引き続き、保健師・看護師統合カリキュラムにおいて看護師国家試験を優先し保健師国家試験対策の取組が遅れないよう、意識づけを行うことを継続した。保健師国家試験について、専門領域の教員がクラス全体や専攻課程の学生に向けての補講・面談、さらに保健師国家試験に関する領域教員からの定期的な支援メール送信を行い、学生への意識づけを行った。</p> <p>令和6年度も引き続き学生の支援体制を整え、看護師と保健師の国家試験を受験するという自覚を早期から持たせ合格率100%をめざしていきたい。</p> |
| 修士学位取得者数 (人) | 8 | 3 | <p>令和5年度修了生は、目標値である8名を下回り3名（※）であった。</p> <p>下回った要因として、令和5年度修了を計画していた令和3年度入学の長期履修生7名のうち、①2名は履修期間を短縮し令和4年度に修了、②2名は家庭事情や産休のため休学し修了予定を延期、③1名は退学、という事由が重なり、当初の計画通り、令和5年度に修了する者が2名となったことが考えられる。</p> <p>研究が計画通りに進むよう、大学院生への支援方法を検討して主任指導教員を中心に支援を行うとともに、入学者を確保するための入試制度の工夫や広報活動に取り組むこととしたい。</p> <p>※令和5年度修了生の内訳 令和3年度入学（長期履修生） 2名 令和4年度入学（長期履修を短縮して修了） 1名 計3名</p> |

【入学者選抜方法の点検】参考データ

現行の入試制度による入学者（令和2年度以降の入学者）累積GPA平均値は次のとおり。

地域推薦入試A（4学年 114名）： 2.63

地域推薦入試B（4学年 23名）： 2.55

地域推薦入試C（1学年 5名）： 2.78

指定校推薦入試（4学年 13名）： 2.79

指定校特別枠推薦入試（4学年 6名）： 2.66

前期日程入試一般枠（4学年 186名）： 2.57

前期日程入試地域枠（4学年 20名）： 2.46

後期日程入試（4学年 39名）： 2.65

令和5年12月20日

令和7年度三重県立看護大学入学者選抜について（予告）【第5報】

令和7年度入学者選抜から「地域推薦型選抜」「東紀州地域指定校推薦型選抜」「多言語多文化選抜」の選抜方法として実施する小論文試験については以下のとおりです。

小論文試験の概要について

令和7年度入学者選抜から「地域推薦型選抜」「東紀州地域指定校推薦型選抜」「多言語多文化選抜」の選抜方法では、本学が実施する基礎学力検査として、小論文試験を課すことはすでに公表しているところですが、その概要について別紙のとおり公表いたします。

なお、小論文試験にかかるサンプル問題も公表する予定です。（公表時期は未定）最新の情報は本学ホームページでお知らせいたしますので、必ずご確認ください。

[参考]

- ・令和4年5月24日付け三重県立看護大学公表「令和7年度三重県立看護大学入学者選抜について（予告）【第1報】」

令和7年度入学者選抜試験における学力検査（小論文試験）の概要

■小論文試験の概要

①この学力検査の目的

本学の特別選抜は、三重県内各地域の市町や医療機関において看護職として活躍する強い意思をそなえた受験生を対象とする入学者選抜試験です。この特別選抜のなかで「地域推薦型選抜」と「東紀州地域指定校推薦型選抜」、「多言語多文化選抜」は、とくに思考力と判断力、表現力において優れた能力をそなえた受験生を対象とします。このため、これらの入学者選抜試験は学力検査として、外国語（英語）で書かれた文章の日本語もしくは英語による要約と、この文章に関わりのある論点についての日本語による小論文を実施します。

②問題について

- ・問題は、英語で書かれた文章の要約問題（問1）と、この内容に関連する日本語による小論文問題（問2）の、全2問からなります。
- ・問1における英文は、500語程度の平易な文章（英検3級から2級の能力で十分に読解可能な文章）からなります。解答者はこれについて、日本語もしくは英語のいずれかを用いて、適切な要約を作成します（要約における字数・語数の指定はありません）。
- ・問2における小論文は、問1の英文のトピックにかかわりのある論点を提示します。解答者は、この提示された論点についての賛否とその根拠を、600字程度の日本語で論述します。
- ・問1と問2のいずれも、多くの人々の生活や意識のあり方にかかわりのある、一般性の高い主題のなかから出題します。

③解答の評価の観点

- ・問1：平易な英語で書かれた文章の内容を理解できるか
：文章の論理展開を把握することができるか
- ・問2：自身の見解を明確な根拠とともに説明できるか
：常識的な時事的主題について一定の理解を持っているか

④解答時間と解答方法、配点

- ・解答方法：問1において、英語辞典等を使用する必要のない平易な英文の読解にもとづき、日本語もしくは英語のいずれかで要約を作成する。問2において、この英文のトピックにかかわりのある論点について、日本語で論述する。
- ・解答時間：120分（問1と問2を同一時間帯内で解答する）
- ・配点：100点満点（問1と問2をそれぞれ50点とする）

⑤そのほか

- ・上記の「小論文試験（外国語の読解を含む）」のサンプル問題と解答例については、令和6年3月に本学ホームページ等において公表する予定です。
- ・「地域推薦型選抜」と「東紀州地域指定校推薦型選抜」、「多言語多文化選抜」においても、上記の学力検査に加え、面接試験を実施します。なお、これらの選抜試験の詳細については、本学ホームページ等をご参照ください。

三重県立看護大学

令和 7 年度特別選抜

地域推薦型選抜・多言語多文化選抜・東紀州地域指定校推薦型選抜

小論文（外国語の読解を含む）

サンプル問題

【作成の趣旨】

- ・ 本サンプル問題は、三重県立看護大学令和 7 年度特別選抜（令和 6 年度実施予定）における「地域推薦型選抜」、「多言語多文化選抜」、「東紀州地域指定校推薦型選抜」にて実施する学力検査「小論文(外国語の読解を含む)」について、具体的なイメージを共有するために公表するものです。
- ・ これらのサンプル問題は、令和 7 年度特別選抜において実際に用いる問題ではありません。また、レイアウトや用紙において、上記学力検査において実際に用いるものとは同じではありません。
- ・ 今後、大学入学者選抜における学力検査として適切な出題となるよう、引きつづき検討する予定です。

【解答にあたっての注意】

- ・ 問題は問 1 と問 2 からなります。それぞれの問題に答えなさい。
- ・ 解答時間は 120 分です。各問題に対する時間配分は自由です。

問 1 以下の英文を、日本語もしくは英語のいずれかを用いて、解答用紙に納まる範囲の文字数もしくは語数で、要約しなさい。

Participating in the Olympics is the dream of many athletes. Sadly, people with intellectual disabilities were not allowed to participate in the traditional Olympic Games. To give disabled people a chance to compete in sports, Eunice Kennedy Shriver ¹⁾ (of the famous American political family) conceived of the Special Olympics. The idea came from her family's experience with her elder sister Rosemary, who was intellectually disabled. The Kennedys were known for their touch-football games, played by the whole family—even the girls. Shriver came to believe that intellectually disabled people could also benefit from being involved in sports activities.

As the director of the Joseph P. Kennedy Jr. Foundation, ²⁾ Shriver started the first day camp for children with intellectual disabilities. During five weeks in the summer of 1963, the campers rode horses, learned to swim, and played various sports. At this time, many believed that intellectually disabled individuals could not do such things. Fortunately, the camp was a great success. As a result of the time they spent there, the children were physically stronger and had increased confidence.

In 1968, the Chicago Parks Department ³⁾ asked the Joseph P. Kennedy Jr. Foundation to fund a national Olympic event for intellectually disabled children. Shriver worked with the Parks Department to hold a special Olympic event at Soldier Field ⁴⁾ that summer. The first Special Olympics was held over two days in Chicago. Nearly 1,000 intellectually disabled athletes from the United States and Canada attended.

The athletes marched into the stadium just as participants in the traditional Olympics do. The games showed that athletes with intellectual disabilities could compete in athletic events. The next year, Shriver formed the nonprofit Special Olympics. Local chapters sprang up and now are found in over 150 countries. Special Olympics programs are held in every state of the United States. There are both summer and winter games.

Special Olympics are held at local, state, national, and international levels. In local chapters, hundreds of volunteers raise money for the events and then supervise them. Volunteers organize teams, line up athletes, and time events. One important job is that of a “hugger” who gives a congratulatory hug to each person crossing the finish line.

The Special Olympics has come a long way since its beginnings in the 1960s. Over fifty years later, thousands of participants have proven themselves as competing athletes in ways that continue to inspire new generations of young people everywhere.

[Adapted from “The Special Olympics” in *High School Reading Comprehension: Informational Text on the*

Special Olympics by The Worksheet Guy] (Text: 405 words)

- 1) Eunice Kennedy Shriver : ユーニス・ケネディ・シュライバー
- 2) Joseph P. Kennedy Jr. Foundation : ジョセフ・P. ケネディ Jr. 財団
- 3) Chicago Parks Department : シカゴ市公園課
- 4) Soldier Field : ソルジャー・フィールド (球技場)

問 2 「ボランティア活動は社会にとって不可欠である」という意見をしばしば耳にします。この意見についてあなたは賛成ですか反対ですか。日本語を用いて、解答用紙に納まる範囲の文字数で、あなたの立場についてその根拠とともに説明してください。

三重県立看護大学 令和7年度特別選抜
地域推薦型選抜・多言語多文化選抜・東紀州地域指定校推薦型選抜
小論文（外国語の読解を含む）サンプル問題

問題のねらいと解答例

問1

■問題のねらい

問1の課題文は、多くの人びとの生活や意識のあり方にかかわりのある一般性の高い内容を主題とした、500語程度の平易な英文（英検3級から2級の能力で十分に読解可能な文章）からなります。設問は、この英文について、日本語もしくは英語のいずれかによって、適切な要約を作成する力を問うています。

この要約について、次の二点を評価します。①平易な英語で書かれた文章の内容を理解できるか。②文章の論理展開を把握することができるか。

■解答例

知的障害者のための運動競技会であるスペシャル・オリンピックスは、1968年にシカゴで始まった。

これを発案したのは、ユニス・ケネディ・シュライバーだった。彼女には知的障害を持った姉ローズマリーがおり、また知的障害者のためのキャンプ活動なども行っていた経験から、こうした人たちがスポーツに参加できるとよいかねてから考えていた。そのようななか、シカゴ市公園課から依頼があり、1968年にユニスが理事を務めるジョゼフ・P. ケネディ Jr.財団がスペシャル・オリンピックスを開催することになった。これには合衆国とカナダから1000人ほどの知的障害を持つ選手たちが参加し、選手たちは障害にかかわらず競技者としての力を発揮することになった。

この翌年には非営利組織が作られ、その地域支部は現在では150以上の国に設立されており、夏季と冬期の競技会が州や国、国際といった様々な単位で開催されている。そしてこれらの競技会は、資金調達から指揮監督、競技運営、そして選手の祝福までと様々な側面をボランティアたちが担うことによって、行われている。

知的障害者たちは、50年以上におよぶスペシャル・オリンピックスの歴史のなかで自身たちが競技者としての十分な力を持つことを証明し、世界中の若い世代を触発し続けている。

問 2

■問題のねらい

問 2 は、多くの人々の生活や意識のあり方にかかわりのある一般性の高い論点を提示し、これについて日本語で論述することを求めています。設問は、この論点についての賛否を示したうえで、その根拠を的確に論述する力を問うています。

この論述について、次の二点を評価します。①自身の見解を明確な根拠とともに説明できるか。②常識的な時事的主題について一定の理解を持っているか。

■解答例

ボランティア活動とは、みずからの意思にもとづいて自発的に、様々な人たちの手助けを行う活動である。こうしたボランティア活動は私たちの社会にとって必要であると私は考える。このように考える根拠については、次の二つの視点から述べることができる。

まず、様々な手助けを必要とする人の視点からは、次のように言える。私たちはみな、多様なニーズを持って生活している。こうしたニーズのすべてを自力で満たすことは不可能である。同様に、公的な社会制度によってこれらのすべてを満たすことも困難である。とくに災害や事故など、急激な生活変化にともなうニーズに対し、公的制度の支援はしばしば遅れがちになる。人々の自発的な意思にもとづいてなされるボランティア活動は、このような自力でも公的な社会制度でも対応することのできない人々の多様なニーズに、柔軟に対応することができる。

次に、手助けする人の視点からも、根拠を挙げることができる。私たちの誰もが、他人の手助けをしたいという希望を持っている。すなわち、命令や指示を受けてではなく、自分の思うような手助けを自発的に行いたい、という気持ちを持っている。ボランティア活動は、こうした私たちの希望を実現する手段となることができる。私たちは、ボランティア活動を通じて、自分たちの自由な意思にもとづきながら、他人との確固とした社会関係を作ることができるのである。

以上の二点からボランティア活動は私たちの社会にとって必要である、このように私は考えている。